



# かきぬいひがし通信

～仲間とともに伸びる子 主体的に学ぶ子 いのち・人権を大切にする子～

<今月の巻頭言>

校長 松宮 孝明

## 「ふつうが一番」から、「新しいふつう」へ

私は、「武士の一分」「たそがれ清兵衛」「蝉しぐれ」などの時代劇が好きです。その原作者である藤沢周平が好きです。(私と誕生日が同じ(12/26)だということを含めて好きです。)

その娘さんである遠藤展子さんの「藤沢周平父の周辺」という作品で、感動した言葉があります。「ふつうが一番」

・・・藤沢周平の母親が、息子夫婦に向かって言う言葉です。少し仕事が順調になったからといって、ぜいたくはしてはいけない。今までやってきたようにふつうに生きていく、生活していくのが一番だと、常に戒めるのです。少し高価なものも欲しくなったりする自分がありますし、少し見栄を張りたがる自分がありますので、反省しなければと思っています。

東北出身の家族が、カレーに醤油をかける習慣をはずかしく思いながら、ふつうが一番と、今まで通りしようとするとき、新しく加わった東京下町育ちの奥さんがソースをかけさせていただきます！と主張する場面などもおもしろかったです・・・。

また、こんな言葉も。

「つらいことや、せつないことは、子どものうちに味わわなければならないものだ。

ほっとけ。ほっとけ。べたべたすんな。甘えん坊を卒業させなければならない。」

・・・これも、藤沢周平が娘をかわいがりすぎるのをたしなめて、おばあさんが言った言葉です。どう思われますか？今の時代、子どもにいやな思いやつらい思いはさせてはならない。させた大人や教師や友だちは悪い人という時代ですから、こんなおばあちゃんの言葉は死語でしょうか？時代に合っていないから、今の時代では間違った考え方でしょうか？

私は、難しい問題だと思うんです。私の長い教師経験で、たくさんの子どもと関わってきて、成長を見てきて感じるのは、ある意味では小中学校時代というのは温室です。守られています。本当につらい経験をするのは大きくなって社会に出てからです。会社などの勤め先では、そんなやさしいことはなく、厳しい面も多く、つらいことやせつないことも多く経験します。それが大人になっていくことともいえます。そういう意味では、おばあさんの言葉は死語ではなく、今でも十分通用する言葉ではないかとも思うんです。おかしいでしょうか？

落ちとして、おばあさんは、息子に、「おまえのちいさいときとそっくりだ。」と言います。少し、笑えます。自分の子育ても母親からそう思われているのかと思った

りして…。

笠縫東小のふつうを作っていきたいです。笑顔で元気に登校してくる。授業中は目を輝かせて学習内容に向かっている。休み時間は友だちと誘い合って外で遊ぶ。(その前に、図書室で借りていた本を返し、新しい本を借りて。) 下校時は、学級で楽しかった一日を振り返り、明日への希望を抱いて、分団で帰る。家でおうちの人に今日の出来事をいっぱいしゃべって、いっぱい聞いてもらえた満足感で、すやすや眠る。つらい経験や切ない経験も時にはあるけど、学校の先生や家族や友だちに、適度に突き放され、適度に優しくされ、自己解決して成長していく。そんなふつうな毎日が繰り返される。そんな毎日を積み重ねていきたいです。

さて、学校が再開しました。

「ステイ ホーム」可能な限り自宅で過ごし警戒する段階から、次の段階を模索しなければいけないと言われています。そして、新しい生活様式が提唱されました。新型コロナウイルス感染拡大に注意しながらも、「新しいふつう」を作っていかなければなりません。

- ・外出するときは、マスクをするのがふつう。
- ・活動のあとや家に帰ったら、しっかり長い目に流水で手洗いをするのがふつう。
- ・3密・・・「密閉」「密集」「密接」を避けるのがふつう。

これらを、「新しいふつう」としていきましょう。

※給食開始月分の給食費はお預かりしていますので、6/5(金)の給食費引き落としはありません。

※令和2年度教科書展示会のご案内です。

日時：6/5(金)～7/2(木) 日・月・祝日は休室

場所：アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(西友南草津店1階)

※本年度の全国学力学習状況調査(6年生対象)は行われません。

## 笠縫東小：こころの教育コーナー

ごほうびを期待しないでやる

「やるべきことがあったら、ほかの人がやるかどうかは関係なく、まず自分から始める！」

アドラーは、だれかがやらなくてはならないことがあったとしたら、ほかの人がやるかやらないかを考えずに、まず自分が行動すべきだと言っているんだよ。ほかの人がやるかどうかは、その人の問題であって、君がどうこうできることではないよね。どんなにきみが「やったほうがいいよ。」と言っても、本人にやる気がなければどうしようもない。だから、ほかの人の問題に首をつっこむ前に、きみが「やる！」と決めて行動することが大切なんだ。どんなことも、選んで決めるのは自分自身だからね。だれかにほめてほしいからとか、ごほうびがほしいからではなく、自分がやりたいことだからやる、やると決めたからにはやる。それが大切。

決めたことがちゃんとできたら、自分を好きになれるよ。それが最大のごほうびだ。

(「超訳 こどもアドラーの言葉」 齋藤 孝 著より)